



プロンプターは オペラの大役

オペラやミュージカルの舞台を注意深く観察すると、ステージ中央の一番手前の床がポコンと盛り上がっている。実はこの陰には穴があいていて、生身の人間がひとり入れるようになっていたのだ。

この狭い場所に身をひそめているのが「プロンプター」である。

これがどういった職業なのか、ウーイン国立歌劇場のチーフプロンプター、イシユトヴァン・チエルヤン氏にうかがった。チエルヤン氏はすでに20年の経験を持つ大ベテランである。

オペラは一旦始まったが最後、音楽は待たなして進行する。こ

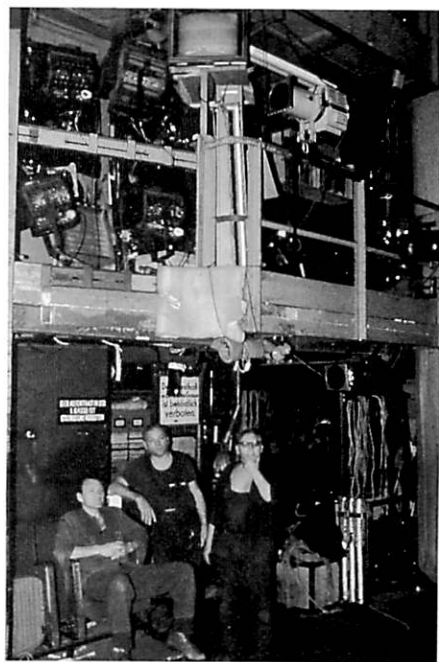
プロンプターボックスのチエルヤン氏



「ほんなん個所が歌手にとって危険なんです。」

ここでは歌手の1秒のとまどいが、命取りになりかねない。テンポの速いアンサンブルなどで、一人の歌手が出遅れた事から全部のパートがばらばらになってしまう、オーケストラともまったく合わなくなる、などという不祥事を未然に防ぎ、万一起きてしまった場合には收拾をその場でつける、という責任ある大役をこなしているのが、プロンプターである。

公演中に不祥事を起こすのは何



機械で埋めつくされているバックステージ、舞台上の夢の世界からは想像もつかない

も歌手ばかりではなく、オーケストラ団員のぼんやり、また指揮者のうっかり、など原因はさまざまだ。

公演中の音楽的アクシデントは交通事故と同じで、その場その場が新しいシチュエーションである。運転中の車の前方に突然人が飛び出してきた時に「うむ、ここはブレーキをかけるのが先か、それともまずハンドルを切るべきか?」などと考えている暇はない。とっさの反射があるのみだ。

オペラでも同様に、アクシデントが起こったその瞬間にプロンプターから「テノールはそのまま音をのばして、1、2、3、はい、次のフレーズへ! ソプラノは待って、次の出の歌詞は△×○、それを、はい、ここで一緒に!」といった指示が顔の表情、目、声と

唇の動き、そして手の動きとともに歌手に明確に与えられる。

合図は何も難所と事故の時のみならず、歌手それぞれにすべてのフレーズの冒頭の歌詞とタイミングが、アフタクトで(1拍前のタイミングで)知らされる。

歌詞は通常声に出して伝えられるが、これが客席にまで聞こえないのはプロンプターがプロたるゆえんである。フルオーケストラが鳴っている所では相当の大声を出さないと歌手まで歌詞が届かない。歌手の声の音程が高すぎたり低すぎたりした時のアドヴァイスもプロンプターから出される。

このように、客席からは全く隠れた存在ではありながら、プロンプターの果たす役割は指揮者と同様、あるいはそれ以上ともいえる

だろう。逆に言えば、オペラ歌手もプロンプターの誘導に従いながら歌う経験を積んでこそやつと一人前、というわけだ。

ソリスト達にこれだけの指示を与えるには、まず作品そのものを隅々まで熟知しなくてはならない。全てのパートのメロディーと歌詞を原語で覚えるぐらいは、最少限の下準備である。

ちなみにウィーン国立歌劇場では毎シーズン、ドイツ語、イタリア語、フランス語は言うに及ばず、それ以外にもロシア語、チェコ語、そしてハンガリー語などのオペラがレパートリーとなっている。

次には自分の楽譜に、歌手が特に間違えやすかったり、歌手にとってわかりにくい、必ず合図を送るべき場所を書き込んでおく。し

かし公演中にこの楽譜を見ている暇はまずない、といって良い。視線は常時歌手にむけられ、それがステージで歌う歌手の安心感にもつながるのだ。

ウィーン国立歌劇場のプロンプターボックスの入口は、オーケストラピットの後方、コントラバスのすぐ後ろの黒いカーテンの陰に隠されている。

たまたみ半畳ほどのスペースに、高さを調節できるビニール張りの椅子が1脚、譜面台、その両脇に指揮者を見られる小さなモニターテレビとバックステージに通じる電話、各種のスイッチ、それに光量を調節できる小さなスタンドがふたつ配置されている。ひとつは楽譜を見るため、もうひとつはプロンプターの顔を照らして歌手か

ら見えるようにするためのスタンドである。

ボックス上部にあるステージへの開口部は横1メートル弱、高さ30センチ程しかない。椅子に座ると、目と鼻の先にステージのフロアーが広がる。ステージに舞い上がるゴミとホコリを顔面にまともに浴びるのは避けようがない。

プロンプターは確固としたオーソリティーを持って、なみいる百戦錬磨の一流歌手達を誘導できなければならぬ。指揮者とのコンタクトも重要だ。

駆け出しの新興プロンプターはまず指揮者に試され、歌手達に試され、……とアーティストの信頼を得るまで^{いぼ}茨の道が続くのである。どんなにいびられようとも、耐える事なくしては大物になれない。



プロンプターボックスから見たステージ

プロンプターボックスからの指示

「まだちょっと待って」「ほら、よく合わせて」

「もう少し声を伸ばし

譜面台横のモニターテレビで指揮者の動きを見る